第27回日本小児泌尿器科学会総会·学術集会

河野 美幸

第27回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会会長 金沢医科大学教授(小児外科)

第27回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会を2018年6月26日から28日の3日間,金沢東急ホテルで開催しました。私の恩師である梶本照穂名誉教授が1997年第6回本会を金沢で開催し,約20年ぶりの金沢での開催となりました。

今回のテーマを『伝え、繋ぎ、進む一こどもたちのために』とし、「伝え」「繋ぎ」「進む」のそれぞれのテーマにふさわしいワークショップ、シンポジウムなどの企画がそろい、また一般応募演題は178演題に及び、参加者は日本全国より400人を超えました。

初日は小児泌尿器科教育セミナーとして3つの教育講演が行われました。今回初めて泌尿器科,外科,小児科の3科がそろって領域別講習単位認定を申請したセミナーとなりました。これにより受講される会員が今後さらに増えることを期待しています。

教育セミナーに引き続き、【伝える企画】ワークショップ『進化する医療:安全な小児腹腔鏡手術のために』として、本邦小児泌尿器領域の腹腔鏡手術を牽引している先生方に発表いただきました。発表後、中堅の先生方もインストラクターとして加わっていただき、腹腔鏡ハンズオン・トレーニングが行われました。ブタの腹部大動脈を腎盂、内頸動脈を尿管に見立てて、ドライボックスで腎盂形成術の手技を行ってもらいました。完遂後のリークテストで、リークがなければ賞品が当たりますとアナウンスしたため、かなりの熱気で行われました。十分な時間がなかったため完遂できた先生は少なかったですが、非常な好評を博しました(写真 ①)。

レセプションはハンズオン・トレーニング終了後 と遅くから始まりましたが、ハンズオン・トレーニ ングの熱気そのままに盛り上がりました。この熱気



1 ハンズオン・トレーニング風景



2 学会第1会場風景

が本学会を最終日まで盛り上げてくれた原動力に なったものと思われます。

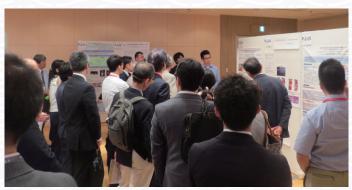
2日目からは2つの口演会場とポスター会場で各セッションが行われ、各会場とも熱心な発表討論が行われました(2~4)。

【繋ぐ企画】『医師の本懐:私の信条』として本学会の著名な先生から、中堅・若手に向けた医師としての心構えをお話ししていただきました。

特別講演は金沢の文化に造詣の深い久世建二先生 (芦原焼窯元四代天聲,金沢美術工芸大学第九代学長) に、「ものつくりの DNA」と題して金沢工芸の歴史から現代工芸の在り方までの講演をいただきました。 今回のテーマである「伝え、繋ぎ、進む」は工芸界にも当てはまり、会員の皆様に金沢の工芸文化を知っていただく素晴らしい講演であったと思います。



③ 学会第2会場風景



4 ポスター会場風景



⑤ 会員懇親会:輪島御陣乗太鼓

もう1つの特別講演は、小児外科医で停留精巣の 基礎, 臨床研究の世界的リーダーである Hutson 先生 (University Melbourne, Royal Children's Hospital) 13 Optimal management of undescended testis depends on understanding germ cell development」と題して講演をし ていただき, 多数の質問が相次ぎました。

Hutson 先生の講演に続き、【進む企画】『停留精巣 の基礎研究と臨床研究』のシンポジウムがあり、基礎 研究がここまで進んでいることを理解し、臨床に役 立つ有用な内容でした。

米倉竹夫先生(近畿大学医学部奈良病院 小児外科) には、「小児外科における NCD の現状 一小児泌尿器 領域との連携に向けて」と題して NCD を非常にわか りやすく講演いただきました。日本泌尿器科学会で は今年から導入されたばかりで、NCD を理解するの に非常に役立つ内容であり、今後の在り方について 多くの質問が続きましたが、十分な時間を割くこと ができず申し訳ないと思いながらも時間とさせてい ただきました。

【進む企画】『尿道下裂の基礎研究と臨床研究』は非 常に難しいテーマでしたが、今後の基礎研究の在り 方や治療に対する考え方を示してくれた意義 のあるシンポジウムとなりました。

懇親会は石川県指定無形文化財である輪島 の御陣乗太鼓で始まりました。地の底から響 くような激しい太鼓の音は、参加者全員の心 に響いたものと思われます(56)。

3日目は学会賞の演題発表に続き、【伝える 企画】『私と小児医療:思い出の症例』で各先生 方に医師生活で心に残る貴重な体験を話して いただき、感動的でもありました。

【進む企画】『小児泌尿器科腫瘍』は腫瘍の治 療の現状と今後の治療の在り方までを含め報 告され、非常に勉強となる内容でした。

【進む企画】として3年前に好評を博した企 画を『ヤングドクター・ディベートコンテスト・ リターンズ (YDDCR)』として行いました。9 つのテーマについて18名の若手医師の熱い ディベート合戦がくり広げられ, 大いに盛り 上がりました(7)。そして、司会者により発 表者全員に発表内容にふさわしい賞が授与さ れ、授与式も大いに盛り上がりました。時間



6 会員懇親会風景



7 ヤングドクター・ディベートコンテスト・リターンズの討論風景

の関係で『私と小児医療: 思い出の症例』と『YDDCR』 のセッションが時間的に一部重なったことは非常に 残念でした。体が2つあれば2つとも最初から最後 まで聞いて勉強したい内容でした。

3日間の日程を終え、参加いただいた先生方からよ いプログラムで勉強になりましたと温かい言葉を頂戴 したことが、主催者にとって一番の喜びでした(8)。

第27回日本小児泌尿器科学会の3日間の概要を報 告しました。会員を含む多くの関係者のおかげによ り無事終了できたことを深く感謝申し上げます。





8 医局関係のスタッフ一同